

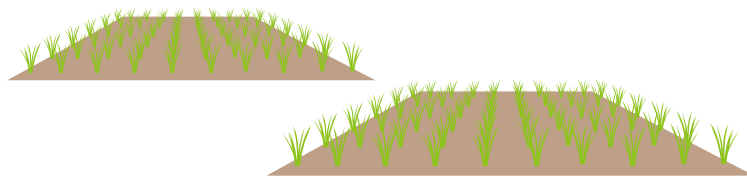
平成28年は魚沼で作況109と大豊作の年でした。しかし、コシヒカリ1等米比率は77%で、平成27年と比べると12%程度低下しました。

29年産米に向け下記の対策を実行しましょう!!

1. 土作りと適正な基肥
2. 初期生育の促進
3. 適正な中干しと水管理の徹底
4. 生育診断に基づく穂肥施用
5. 適期収穫と丁寧な乾燥・調整の実践



## 特に中干しが大事



平成28年の格落ち原因は除青未熟、心白粒、胴割れです。具体的には**籾数過剰**、**高温**、**刈遅れ**が主な要因です。その全てを解決するのが中干しです!!

## 中干し効果

無効分けつの抑制	籾数の過剰抑制 ※おいしさと品質を優先とした米づくりをするため、目標収量は510kgとしましょう。
根の活性化	高温でも養分を吸いやすくし、未熟粒等を防ぐ
倒伏軽減	
溝切による排水向上	収穫作業の効率が向上し、刈遅れを防ぐ
地耐力の確保	

※田植え後25日を目安に中干ししましょう!!